

新年度の町づくり一般会計53億円の使いみち



平成三年度 一般会計当初予算

53億3000万円



町民1人あたりでは
22万5404円
(2月末日現在)
(の人口で計算)

一般会計予算…前年度とくらべてみると	
◆総額	平成3年度 53億3000万円
前年度比	+ 3.9%
町民1人当たりでは	22万5404円
◆自主財源	平成2年度 51億3000万円
歳入の中での割合	+ 9.9%
◆町税	20億1311万円
歳入の中での割合	37.8%
町民1人当たりでは	8万5247円
◆町債(借金)	2億2730万円
歳入の中での割合	4.3%
◆地方交付税	10億1300万円
歳入の中での割合	19.0%
◆人件費	15億132万円
歳出の中での割合	28.2%
◆公債費(借金の返済)	4億8594万円
歳出の中での割合	9.1%
◆普通建設事業費	17億2577万円
歳出の中での割合	32.4%

当初予算はほぼ昨年並み

一般会計予算とは、町民の皆さんからいただいた町税などを始めに有効に使わなくてはなりません。道路・下排水の整備や学校教育、老人福祉など。これらのお金の入り方と使いみちの計画を予算といいます。平成二年度予算が町議会の三月定例会で承認されたのでお知らせします。

町へは毎年、町民の皆さんからいただいた町税などを多額のお金が入ります。それらのお金は町民の皆さんために有効に使わなくてはなりません。道路・下排水の整備や学校教育、老人福祉など。これらのお金の入り方と使いみちの計画を予算といいます。平成二年度予算が町議会の三月定例会で承認されたのでお知らせします。

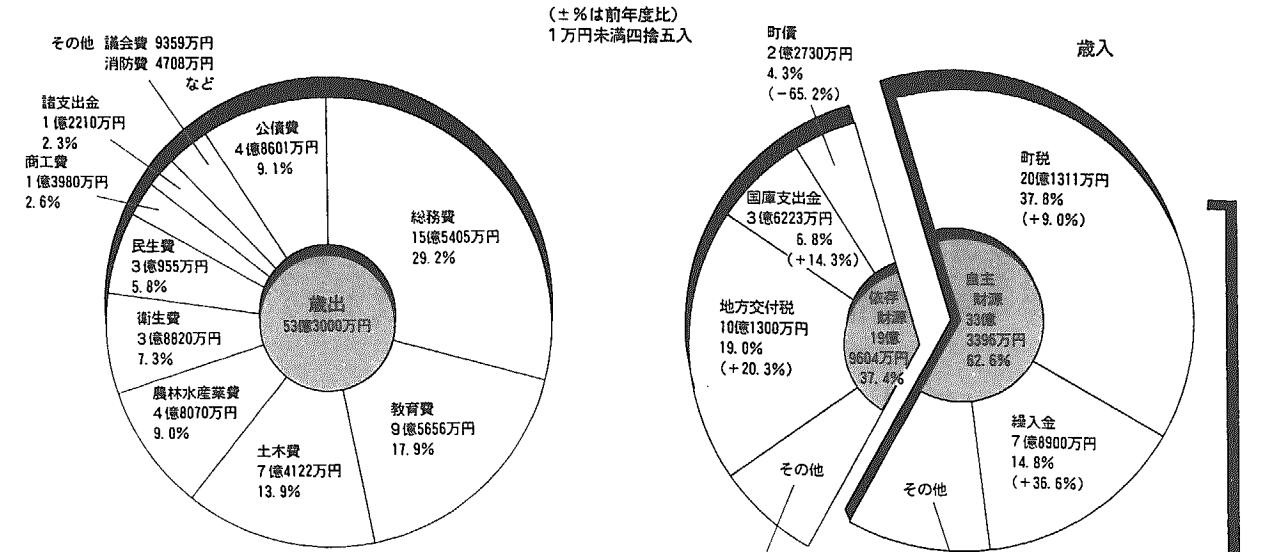
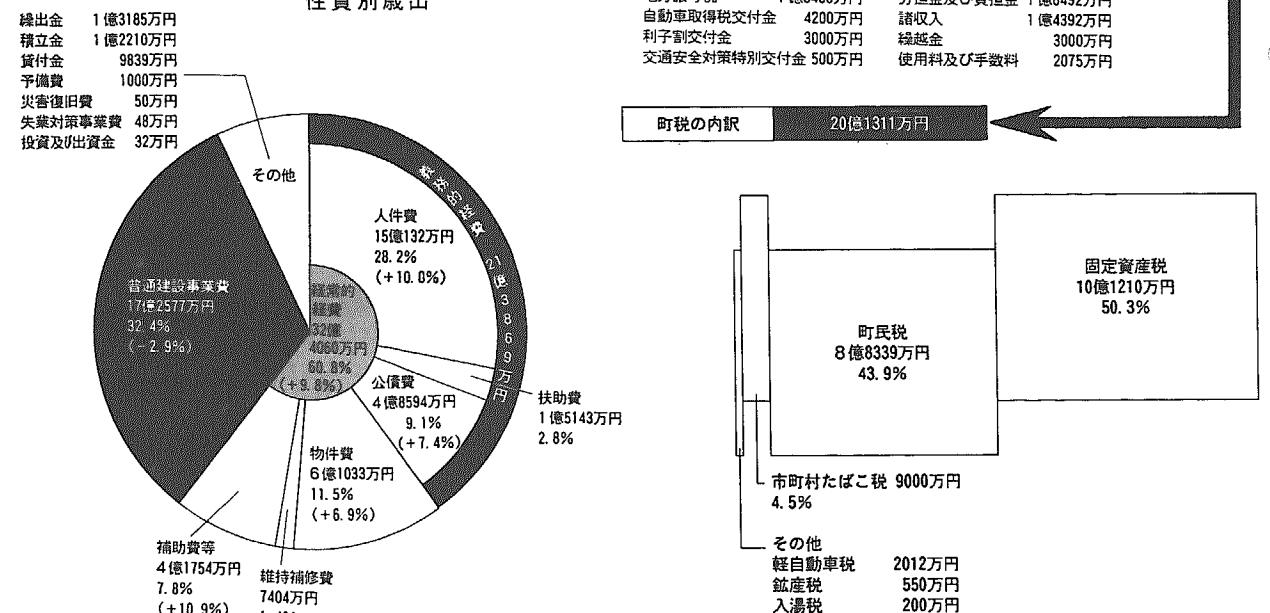
一般会計予算とは、町民の皆さんからいただいた町税や国県からの補助金などを、町がどのように使うかを年度初めに決めたものです。その年度(4月1日～翌年3月31日)の町政の基本となるものです。

年度途中で事業を変更したり、予定した町税や補助金が

性質別に予算を見ると経常的経費といわれる人件費や公債費(町の借金の返済)、物件費など必要不可欠な経費が61%を占めています。

道路や学校などの各種施設を建設するための費用である普通建設事業費は、17億2577万円で、前年度より5195万円、2.9%減少しています。前年度は老人福祉センターの建設、立派な小学校の屋内体育館の増築など緊急に整備をしました。町税のうち固定資産税は10億1210万円(前年度より1億6680万円の増)で、前年度より1億1800万円増)を見込みました。

歳入では、町税を20億1311万円と見積もりました。前年度より1億6680万円の増です。町税のうち固定資産税は10億1210万円(前年度より1億6680万円の増)で、前年度より1億1800万円増)を見込みました。このうち財政調整基金から4億円、教育施設整備基金から3億2000万円、ふるさと創生事業基金から4億円を繰り入れました。分担金及び負担金はほとんどが保育料です。財産収入はほとんどが基金の利子です。財産収入は商工費貸付金の元利收入や預金利息による見込みです。町債の残高は、平成2年度末で40億8100万円となり、平成3年度末には40億8402万



788円増えています。
性質別に予算を見ると経常的経費といわれる人件費や公債費(町の借金の返済)、物件費など必要不可欠な経費が61%を占めています。

道路や学校などの各種施設を建設するための費用である普通建設事業費は、17億2577万円で、前年度より5195万円、2.9%減少しています。前年度は老人福祉センターの建設、立派な小学校の屋内体育館の増築など緊急に整備をしました。町税のうち固定資産税は10億1210万円(前年度より1億6680万円の増)で、前年度より1億1800万円増)を見込みました。このうち財政調整基金から4億円、教育施設整備基金から3億2000万円、ふるさと創生事業基金から4億円を繰り入れました。分担金及び負担金はほとんどが保育料です。財産収入はほとんどが基金の利子です。財産収入は商工費貸付金の元利收入や預金利息による見込みです。町債の残高は、平成2年度末で40億8100万円となり、平成3年度末には40億8402万